

## 「～たあとで～」と「～てから～」

杉本 和之

(日本語日本事情研究室)

### 1. はじめに

この小論の目的は「～たあとで～」と「～てから～」という二つの類義表現の、各々の基本的な意味・用法の特徴を探り、その違いを明らかにすることである。この二つの表現については、主な先行研究として、A. Alfonso (1966)、久野 (1973)、吉川 (1980)、小矢野 (1980) が挙げられるが、A. Alfonso (1966) については1ページほどの記述で満足できる説明が得られない、吉川 (1980) は「～てから～」を中心とする記述で、学生の誤用例の分析も行っているが、両表現の異同についての分析が久野 (1973) を補完する形になっている、小矢野 (1980) の場合は両表現の異同というよりは、「～てから～」の前件と後件に入る要素の形態の分析に重きを置いている、ということから、結局、この小論の展開に参考となる文献としては久野 (1973) ひとつということになる。

久野 (1973) は両表現の意味の違いについて、詳しくかつ明瞭に述べている。但し、これに対して筆者は若干の疑問をもっている。特に「～たあとで～」の本質的な表現特性が十分に述べられていないという感想を抱いている。以下、久野説に対する批判を混じえて論を進めていきたい。

### 2. 「～たあとで～」の基本的意味

「～てから～」と「～たあとで～」の意味の違いについて、久野 (1973) は次のように要約している。

$S_1$ テカラ $S_2$   $S_1$ の主語の意図的計画によって、 $S_2$ が(物理的あるいは心理的に) $S_1$ の直後に起きることを表わす。「以来」の意味にも用いられ得る。

$S_1$ タアトデ $S_2$   $S_1$ が起きてから不特定の時間がたった後、 $S_2$ が起きることを表わす。 $S_1$ と $S_2$ との間に意図的な時間の前後関係があってもなくてもよい。「以来」の意味に用いることはできない。

筆者は「 $S_1$ テカラ $S_2$ 」が“ $S_1$ の直後に起きることを表わ”し、「 $S_1$ タアトデ $S_2$ 」が

“ $S_1$ が起きてから不特定の時間がたった後、 $S_2$ が起きることを表わす”とする規定に疑問を感じる。確かに多くの例文で両者を比較し検討するとこのような傾向が見られるが、それが二つの表現の本質的な差異だとは思えない。

- (1) 洗濯したあとで掃除した。
- (2) タバコを吸ったあとで目まいがした。

この二つの例文は $S_1$ の“直後”に $S_2$ が成立したと十分考えられる。更に「～たあとで～」の文が「 $S_1$ が起きてから不特定の時間がたった後、 $S_2$ が起きる」という解釈しかできないのだとすると、「すぐに」という副詞は使用できないという結論になるが、しかし実際にはそうではない。

- (3) 昼ごはんを食べたあとですぐに木村君に電話をした。
- (4) 仕事が終わったあとですぐに出かけた。

久野(1973)は又、“一般的に、「 $S_1$ タアトデ $S_2$ 」の $S_1$ が正確な時間を表わすと、その文は不自然となる”として、次のような例文を挙げている。

- (5) a. 10時ニナッテカラ家ヲ出タ。
- b. ? \*10時ニナッタアトデ家ヲ出タ。
- (6) a. 6時ニゴハンヲ食ベテカラ, 7時ニ映画ヲ見ニ行ッタ。
- b. ? 6時ニゴハンヲ食ベタアトデ, 7時ニ映画ヲ見ニ行ッタ。

そして(5)b. (6)b. が“非文法的であるのは、この文の $S_1$ が正確な時間を指定しているのに対して、後半がきわめて不正確な時間を指すことに由来する釣り合いの悪さのためであろう。”と説明している。これは前件が正確な時間を表わすと、それに影響を受けて、後件は「直後」の解釈しか許容されないという意味であろう。

確かに久野(1973)の言う通り、「10時になったあとで～」 「3月になったあとで～」 「1996年になったあとで～」といった類の文は全て成立しない。しかし正確な時間が前件に入っても、「～になったあとで～」という形式でなければ成立する。

- (7) テレビの12時の時報を聞いたあとで、玄関のチャイムが鳴った。
- (8) 昨日午後0時15分に出前の寿司が届いたあとで、寿司屋から電話があった。

以上のことは如何なる意味をもつのであろうか。筆者は、「～たあとで～」という表現形式の基本的な特性は、久野(1973)が言うような“ $S_1$ が起きてから不特定の時間がたった後、 $S_2$ が起きることを表わす”ものではなく、 $S_2$ の成立の時点を示すために、 $S_1$ に目印となるような具体的・印象的な出来事を示し、その目印の後に $S_2$ が起こったと述べることだと考える。

- (9) 戦争が終わったあとで長男が生まれた。
- (10) 結婚したあとで係長になった。
- (11) 大掃除が済んだあとで、みんなで食事に出かけた。

いずれも $S_1$ は $S_2$ の起きる時期の目印となっている。目印であるから、 $S_1$ は $S_2$ より印象度(あるいは出来事のスケール)が大きい。少なくとも話者にとって $S_2$ より小さいということはない。即ち、 $S_1 \geq S_2$ という関係が考えられる。冒頭の

- (1) 洗濯したあとで掃除した。

は、 $S_1 = S_2$ の例である。

- (12) a. ? 手を洗ったあとで食事をした。

- b. 手を洗ってから食事をした。
- (13) a. 食事をしたあとで手を洗った。
  - b. 食事をしてから手を洗った。
- (14) a. ? ちょっと考えたあとで結論を出した。
  - b. ちょっと考えてから結論を出した。
- (15) a. 一週間考えたあとで結論を出した。
  - b. 一週間考えてから結論を出した。

(12) a. (14) a. が座りが悪いのは「直後」の意味を表わせないからではなく、 $S_1 < S_2$  となって、 $S_2$  の目印として  $S_1$  の意味が弱すぎるからだと考えられる。「戦争が終わったあとで～」のように  $S_1$  の目印、エポックとしての性格が強まれば強まるほど、その影響、余韻が大きくなり、その結果として、「直後」ではなく、「不特定の時間が経った後」あるいは「しばらくして」というニュアンスが生じるのではなからうか。要するに「～たあとで～」の文の本質的な表現特性は、 $S_1$  の成立後「不特定の時間が経った後」を示すことにあるのではなく、 $S_1$  という具体的・印象的な目印の後に  $S_2$  が成立することを示すことにある、と考えるのである。

なお、

- (1) 洗濯したあとで掃除した。

のように  $S_1 = S_2$  で、連続した動作を表わす場合は、 $S_1$  の目印としての性格がやや弱まり、「～てから～」に近い意味で使われることがあるといえよう。

又、「10時になったあとで～」「3月になったあとで～」「1996年になったあとで～」の類の文が成立しないのは、いずれも「1時、2時、3時、……」「1月、2月、3月、……」「1995年、1996年、1997年、……」と続く時系列の中の1点を採り上げるのみで、個別に完結した具体的なできごととしての性格が弱いためであろう。同じ「～になったあとで～」という形式を用いても、これらの時系列的な表現を避ければ、たとえば「衆議院が解散になったあとで～」「宗教法人法が廃案になったあとで～」のような文なら十分に成立する。

- (16) 衆議院が解散になったあとで、模様ながめのため株の取引はしばらく低迷した。
- (17) その対策は、宗教法人法が廃案になったあとで検討しよう。

### 3. 「～てから～」の意味

前節の例文を再度採り上げて検討してみよう。

- (12) a. ? 手を洗ったあとで食事をした。
  - b. 手を洗ってから食事をした。
- (13) a. 食事をしたあとで手を洗った。
  - b. 食事をしてから手を洗った。
- (14) a. ? ちょっと考えたあとで結論を出した。
  - b. ちょっと考えてから結論を出した。

(12) a. (14) a. では成立が困難であるのに、それを「てから」に替えた(12) b. (14) b. ではなぜ容易に成立するのであろうか。これは、「～たあとで～」の文においては、 $S_1$  が  $S_2$  の目印になるために  $S_1 \geq S_2$  という制約を受けるが、「～てから～」においてはそのような制約を受けない、ということを示している。「～てから～」の文では  $S_1$  と  $S_2$  の成立の時間的順序を明確

にするのがその主たる目的であるからである。

$S_1$ と $S_2$ の時間的順序という点では、「～てから～」は「～て～」の文と似た機能をもっている。但し、「～てから～」は「～て～」に比べて時間的順序を強調する傾向が強い。

(18)a. 顔を洗って朝御飯を食べた。

b. 顔を洗ってから朝御飯を食べた。

この場合 $S_1$ 、 $S_2$ は通常の時間的流れを表わしているので、b. は順序を強調し過ぎているという印象を受ける。ところが $S_1$ 、 $S_2$ の順序を逆にすると、今度は「てから」で強調されないと意味が通じなくなる。

(19)a. ?朝御飯を食べて顔を洗った。

b. 朝御飯を食べてから顔を洗った。

又、逆に $S_1$ と $S_2$ の時間的順序がそれ以外に考えられないような一連の動作を表わす、次のような例文においては「～てから～」は不自然、「～て～」でなくてはならないという場合が起きる。

(20)a. ?ライターを取り出してから火をつけた。

b. ライターを取り出して火をつけた。

(21)a. ?受話器を取ってからダイヤルを回した。

b. 受話器を取ってダイヤルを回した。

要するに、「～て～」の文は $S_1$ と $S_2$ の時間的順序が文脈上明確である場合に用い、「て」それ自体には $S_1$ と $S_2$ の時間的順序を敢えて言い立てる機能は持っていないのに対し、「～てから～」の文は $S_1$ が先で、 $S_2$ が後だと説明する機能を持っているということになる。

次に「～てから～」が「直後」を表わすという、久野説について検討してみよう。確かに久野の言うように、

(22)a. ゴハンヲ食ベテカラ、映画ヲ見ニ行ッタ。

b. ゴハンヲ食ベタアトデ、映画ヲ見ニ行ッタ。

この両文を見比べれば、a.の方が「直後」の感じが強いが、あくまで比較の上での話で、「～てから～」の文が(後述する「以来」の用法を除いて)常に「直後」の意味を担っているとは考えにくい。

(23) 戦争が終ってから結婚した。

この例文は「戦争が終るのを待ち構えていて、終わったの見届けてすぐに結婚した」(即ち「直後」)とは到底考えられない。「直後」の意味を少し緩やかにとって、「戦争終了後、(話者にとって)最初の重要な出来事として、結婚があった」と解釈できなくはないが、1)戦争が終った、2)その後結婚した——というように出来事の順序を述べていると見るのが無難ではなかろうか。

(24) アメリカから帰ってから家を建てた。

これも同様、「直後」とは解釈できない。

続いて $S_1$ と $S_2$ の意図的な時間的前後関係については、基本的には久野(1973)の言う通りである。

(25) 12時のニュースを見てから出かけた。

(26) 太郎はいつも手帳で電話番号を確かめてから電話をかける。

確かに主体の意図的な計画が感じられる。但し、“S<sub>1</sub>の主語の意図的な計画によって、S<sub>2</sub>が(物理的、あるいは心理的に)S<sub>1</sub>の直後に起きる”という規定には問題がある。文において主体の意図・ムードの表現が完結するのは言うまでもなく、従属節(S<sub>1</sub>)ではなく、主節(S<sub>2</sub>)においてである。実際、次のようにS<sub>1</sub>が無意志表現、S<sub>2</sub>が意志表現という場合でも、主体の意図的な前後関係が窺われる。

(27) 子供が寝静まってから、彼女はテレビをつける。

(28) 会議が終わってから、残りの仕事を片付ける。

従って、「S<sub>1</sub>の主語の意図的な計画」ではなく、「S<sub>2</sub>の主語の意図的な計画」とすべきであろう(S<sub>1</sub>の主語とS<sub>2</sub>の主語が重複することは当然ありうるが)。

事実、S<sub>1</sub>、S<sub>2</sub>が同一主語の場合、S<sub>1</sub>が意志表現であっても、S<sub>2</sub>が無意志表現になると、即ち、S<sub>2</sub>の主語が意図性を失うと、「～てから～」の文は(「以来」の用法を除いて)成立しない。

(29) a. ?よし子は薬を飲んでから気を失った。

b. よし子は薬を飲んだあとで気を失った。

(30) a. ?昨夜酒場を出てから寒気がした。

b. 昨夜酒場を出たあとで寒気がした。

前節で挙げた

(2) タバコを吸ったあとで目まいがした。

も同種の文で、「～たあとで～」なら成立するが、「～てから～」の文では成立しない。

次にS<sub>1</sub>とS<sub>2</sub>が共に無意志表現の場合はどうなるか。久野(1973)の規定では、「以来」の用法以外には成立しないようにとれるが、実際にはそうではない。

(31) 東京オリンピックが終了してから、長男が生まれた。

(32) 山桜は新芽が出てから花が開く。

(33) 会議が始まってから気がついた。

これらの文では「主体の意図的な前後関係」はもちろん全く見られない。S<sub>1</sub>とS<sub>2</sub>の成立の時間的順序を述べているに過ぎない。そして「直後」としての性格も弱い。

結局、久野(1973)の言う「直後」と「意図的な時間的前後関係」が同時に成立するのは、S<sub>1</sub>とS<sub>2</sub>が同一主語で共に意志的な動作を表わす場合に限られるようである。

最後に「～てから～」が「以来」の意味で使用される場合の条件であるが、久野(1973)では、単に、S<sub>1</sub>てからS<sub>2</sub>は「以来」の意味にも用いられ得る、と述べているだけであるが、吉川(1980)は「以来」の意味が生じる構文的条件として

前半部分(前件): 「～てから」の形をとる動詞が結果動詞である。

後半部分(後件): 「[時間]がたつ、[時間]になる」という表現、状態表現である。

と規定している。

この規定について、例文を挙げて少し検討してみよう。

(34) プロ野球が開幕してから、毎日スポーツ・ニュースが楽しみだ。

(35) 会社を辞めてから、毎朝散歩している。

(36) 結婚してからもう27年になる。

- (37) 大学に入学してから、ずっとアルバイトを続けた。  
 (38) その年は7月に入ってから雨の日が続いた。  
 (39) 昨日6時に晩御飯を食べてから、何も口にしていない。

後件では、吉川(1980)の規定の他に、(37)(38)の例のように、「続ける」「続く」という動詞も入り得るといえることがわかる。前件では、(39)のように結果動詞でなくとも成立する。「以来」という表現は本来「1945年以来」「3月以来」のように時点を表わす語句に後接する性質を持っている。(39)の場合でも「昨日6時に」という時点を表わす表現があり、かつ「晩御飯」という、時点に近似した語があるため、「以来」という意味が生じる。単に「食べる」という動詞だけなら、即ち単独の「食べてから」なら「以来」という意味は出て来ない。従って、前件では吉川(1980)の規定の他に、時点を表わす表現があれば、結果動詞でなくとも可、という条件を加えればよい。

#### 4. 「～たあとで～」のその他の特徴

久野(1973)は「～たあとで～」の文では、「 $S_1$ と $S_2$ の間に意図的な時間的前後関係があってもなくてもよい」と規定している。この規定で「意図的な時間的前後関係」という意味が、「積極的に動作1を行ない、その後更に意図的に動作2を行なう」という意味でなら、「～たあとで～」は使いにくい。

- (40) a. ? その件は仕事を片付けたあとで、ゆっくり話し合しましょう。  
 b. その件は仕事を片付けてから、ゆっくり話し合しましょう。

しかし、ある出来事の成立を確認した後にある動作を意図的に行なう、という意味でなら問題は無い。

- (41) その件は仕事が終わったあとで、ゆっくり話し合しましょう。

いずれにしても、「～たあとで～」の文では $S_1$ に意志性の強い表現は来にくい。たとえ $S_1$ に意志性の動作を表わす動詞が入ったとしても、「 $S_1$ たあとで」の部分は完結したものとして、まとまった一つの出来事として解釈されてしまう。 $S_1$ から $S_2$ へ同質の表現として流れるのではなく、「 $S_1$ たあとで」で一段落し、局面が変わった上で $S_2$ へと引き継がれる。

- (42) 残りの仕事を片付けたあとで、妻に電話をした。  
 (43) 妻にさんざん文句を言ったあとで、給料袋を渡した。

「～たあとで～」の文が「以来」の意味で用いられないというのも、久野説の通りである。

- (44)\* 結婚したあとでずっとここに住んでいる。  
 (45)\* 就職したあとで今日までいいことが全然ない。

最後に「～たあとで～」の文では、移動を表わす動詞「行く」「来る」を用いた場合、特殊な制約が働くという現象が見られる。

- (46) a. \*彼は日本へ来たあとで、名古屋で10年振りに旧友に再会した。  
 b. 彼は日本へ来てから、名古屋で10年振りに旧友に再会した。  
 (47) a. ? 吉田君は北海道へ来たあとで、毛ガニが好きになった。  
 b. 吉田君は北海道へ来てから、毛ガニが好きになった。

- (48) a. 山田君はドイツへ行ったあとで博士号をとった。  
b. 山田君はドイツへ行ってから博士号をとった。  
(49) a. ?私はデパートに行ったあとで、部長に贈物をすることに決めた。  
b. 私はデパートに行ってから、部長に贈物をすることに決めた。

このように「～たあとで～」の場合、 $S_1$ と $S_2$ が同一主語のときは、 $S_1$ が示す移動先での行為や出来事について、 $S_2$ で述べることができない、ということがわかる。(48) a. の場合も「博士号をとった」のはドイツではなく、日本でである。これに対して「～てから～」の場合は、このような制約がない。(48) b. も「日本で博士号をとった」とも解釈できるが、「ドイツで博士号をとった」とするのが自然な解釈であろう。

$S_1$ と $S_2$ の主語が異なっている場合、或いは同一主語であっても $S_2$ の記述が $S_1$ の示す移動先での行為や出来事でない場合は問題ない。

- (50) 山田君がドイツへ行ったあとで、ドイツの首相が替わった。  
(51) 彼女が日本へ来たあとで、阪神大震災が起こった。  
(52) 山田君はドイツへ行ったあとでロシアへ行った。  
(53) 彼女は日本へ来たあとで、スリランカに立ち寄っている。

以上のことは何を意味しているのであろうか。先に「 $S_1$ たあとで」はまとまった一つの出来事を表わし、前件で表現が一段落して、そこで局面が変わった上で $S_2$ へと引き継がれると述べたが、「行ったあとで」「来たあとで」の場合はこの「局面転換」の傾向が強く出たのだと思われる。

なお、同じ移動を表わす動詞でも、「帰る」の場合はあまり問題にならないようである。

- (54) 中村君は日本へ帰ったあとで、政治の世界へ入った。  
(55) 私は家へ帰ったあとで百科事典を調べてみた。

この場合でも「～てから～」の文を用いた方が意味が明瞭になるようであるが、「～たあとで～」でも別に非文法的とは言えない。「帰る」の場合は「帰国」「帰宅」という具体的な意味内容があるので、それに助けられていると考えていだろう。家へ帰ったり、国へ帰ったりすると、その時点で意味上質的な転換が完結すると見られるからだろう。これに対して「行く」「来る」という動作自体は行為の目的ではなく、何かするために移動するわけであるから、単に移動を示すだけでは具体的内容に乏しいのだと考えられる。

- (52) 山田君はドイツへ行ったあとでロシアへ行った。

この場合は「ドイツへ行った」が「ドイツへ行って、そこで行なったこと」全てを代表しているから成立するのであろう。

「行く」「来る」に見られるこのような制約は、類似の意味をもつ「渡る」「上京する」等にも見られる。

- (56) a. \*小林君はアメリカに渡ったあとで、本格的に英語の勉強を始めた。  
b. 小林君はアメリカに渡ってから、本格的に英語の勉強を始めた。  
c. 小林君はアメリカに渡ったあとで、半年ほど中南米にも行っている。  
(57) a. \*渡辺君は上京したあとで、都内の多くの先輩を訪ねた。  
b. 渡辺君は上京してから、都内の多くの先輩を訪ねた。  
c. 渡辺君は上京したあとで、一度故郷に帰っている。

ところで、「行く」「来る」という動作がそれ自体行為の目的でなく、むしろ手段であること

から、「～行ってから～」「～来てから～」という表現より、 $S_1$ と $S_2$ を接続させると同時に、 $S_1$ が手段であることも示す「～行って～」「～来て～」の方が用いられやすい場合が多い。

(58) 山田君はドイツへ行って博士号をとった。

(59) 彼は日本へ来て、名古屋で10年振りに旧友に再会した。

(60) 小林君はアメリカに渡って本格的に英語の勉強を始めた。

(61) 渡辺君は上京して都内の多くの先輩を訪ねた。

(62) a. 芳子は三越へ行って買い物した。

b. \*芳子は三越へ行ってから買い物した。

c. \*芳子は三越へ行ったあとで買い物した。(三越以外の場所で買い物したのなら可)

(62) b. が成立しないのは、「三越へ行くこと」と「買い物すること」が容易に、必然的に結び付くために、「てから」で表現すると強調自体が不自然になるためである。

### 参考文献

- (1) A. Alfonso 1966 "Japanese Language Patterns" Sophia University L.L.Center of Applied Linguistics.
- (2) 久野 暲 1973 『日本文法研究』(大修館書店)
- (3) 吉川 武時 1980 「～てから」をめぐる諸問題 『日本語学校論集7号』 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- (4) 小矢野哲夫 1980 「～テカラ～」という構文をめぐる 『日本語・日本文化第9号』 大阪外国語大学研究留学生別科
- (5) S.E.Martin 1988 "A Reference Grammar of Japanese" Charles E. Tuttle Company

(1996年4月30日受理)